The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	真の『パンキョー革命』のために : 日本の大学の現状と問題点及び海外大学先進事例紹介
Author(s)	山内, 太地
Citation	大阪大学高等教育研究. 2013, 1, p. 85-96
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/24847
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪大学高等教育研究　(2012) 1，85−96

【講演記録】

真の『パンキョー革命』のために

― 日本の大学の現状と問題点及び海外大学先進事例紹介 ―

山内　太地

大阪大学の皆さん，こんにちは．本日はお招きあずかりましてありがとうございます．パンキョー革命ということで私がお役に立てることがあればと思い，1時間ほどちょうだいしています．学生の方はもうすっかり慣れていらっしゃると思いますが前もって予告しておきます．よくご存じのとおり，日本人は「質問ありますか」といわれても誰も手を上げない民族です．ですので，前もって私が話す1時間のうちに必ずメモ帳に質問を書いていただいて，25分の質疑応答でたくさん手が挙がることを前提に話します．今からそれを皆さんの方で仕込んでください．よろしくお願いします．

話は大きく三つありまして，まず私が2月，3月に取材してきたアメリカのトップ大学，アイビーリーグ各校の授業の話が一つ，もう一つはアメリカで見てきた大学の授業の在り方に対して，では日本はどうしていけばいいのか，最後に皆さんが今後パンキョー革命を進めていくに当たり私が重要だと考えている大学の先生の在り方という三つの話をします．

1．アメリカ・カナダのトップ大学

1-1. 東京大学とイェール大学の時間割

冒頭に，東京大学とアメリカイェール大学の1年生の時間割をそれぞれ作ってみました．申し訳ありませんが私は大阪大学について詳しくないため，皆さんは東大生側を参考に見ていただきたいと思います．

東京大学の時間割は朝9時から1限が始まり，夕方まで90分ずつ授業が続いています．語学の授業が4コマあります．皆さんも1年生のころ，あるいは現1年生はいろいろな授業を取っています．

ここでポイントなのは，東京大学においてはなぜか1年生クラスが第2外国語のクラスなのです．ですから，

東大文科Ⅲ類1年生
Aさんの時間割

		月	火	水	木	金
1限	9:00−10:30		社会Ⅰ	数学Ⅰ	教育臨床心理学	基礎演習
2限	10:40−12:10	認知脳科学			情報	ドイツ語演習
3限	13:00−14:30	心理Ⅰ	体育	英語一列		
4限	14:50−16:20	ドイツ語一列	英語二列	ドイツ語二列	主題科目　東大の心理学	哲学Ⅰ
5限	16:30−18:00		物理科学Ⅰ	ジェンダー論		社会哲学

ドイツ語やスペイン語のクラスが1年生のクラスになります．東京大学では英語の授業を1クラス60人でやっています．これを私立大学の先生が聞くと，うちが勝ったなどとよく分からないことを言い始めますが，こういっては何ですけれども東京大学の英語の授業が60人で行われているとは，とても世界に誇る英語の授業をやっているとは思えません．皆さんが勘違いしていますが，東京大学の教育水準が世界一かどうか，私は大変疑問に感じます．

この学生の時間割は金曜の1限に基礎演習というゼミがあります．これはいわゆるアカデミックリテラシーで，大学での勉強法を学ぶことになっていますが，私がインタビューしたところでは語学クラスほどは友達同士あまり仲良くなれないそうです．重要な点ですが，東京大学名物として，この時間割のうち体育・語学・ゼミ以外はほぼ100人や200人の大人数講義です．一方的に聞く授業は皆さんも受けられていると思います．

大学研究家
連絡先：kurikin@juno.ocn.ne.jp

面白いのは，東京大学では第2外国語クラスで試験対策委員，通称「シケタイ」という人を決めます．20人ぐらいいたらあなたとあなたが「シケタイ」と決めます．「シケタイ」が何をするかというと，試験のプリントである「シケプリ」を作ります．例えば，この時間割で数学や社会でAくんとBさんが「シケタイ」になったとします．2人は一生懸命に丁寧にノートを取って，ネット上でクラスのみんなに共有させます．以前，東大生のノートという本が流行ったと思いますが，なぜきれいに取れるかというと，クラスの仲間に写させてあげるためにきれいに取るのです．そして，驚くべきことに東京大学では1年生の全部の授業に「シケタイ」「シケプリ」が存在します．つまり皆さんとあまり学力が変わらない東大生はこんなに効率良く授業を受けているのです．ですから，自分が取っていない授業でも「シケタイ」「シケプリ」が手に入りますし，ネット上などにもあります．これでクラス一丸となってレポートを乗り切るという熱い友情に包まれたのが東大生の授業です．東京大学のすべての1，2年生には「シケタイ」「シケプリ」があります．私は革命的怒りをもってこれを粉砕しようとしています．九州大学や北海道大学も取材しましたが「シケタイ」「シケプリ」を作っているのは東京大学だけです．これが東大です．

では，取材してきたアメリカのイェール大学の話に移ります．イェール大学の時間割でまず皆さんにとって圧倒的に重要な話は，授業が90分ではありません．日本では70分で行っている国際基督教大学（ICU）などもありますが，ほぼすべての日本の大学の授業が90分だと思われます．東大の時間割を見れば分かるように90分で固定されているのですよ．皆さんのところもそうだと思います．ですが90分授業は長くて退屈ですよね．驚くことにイェール大学の時間割では語学は50分授業です．なぜ50分かと聞いたら集中力が続かないからといわれました．当然ですよね．

イェール大1年生B君の時間割

	月	火	水	木	金
9:25–10:15	中国語中級	中国語中級	中国語中級	中国語中級	中国語中級
10:30–11:20	有機化学		有機化学		有機化学
11:35–12:50		ライティングセミナー		ライティングセミナー	
14:10–15:25		免疫学（フレッシュマンセミナー）	13:00 有機化学実験 16:30	免疫学（フレッシュマンセミナー）	
19:00–20:00		セクション有機化学			

アメリカの大学ですから英語の授業はありません．イェール大学の1年生は第1外国語で中国語を取ります．皆さんや東京大学では中国語や英語は週2日だと思いますが，イェール大学やプリンストン大学，ハーバード大学では基本は月～金曜日まで毎朝です．朝は一番頭がすっきりしているので朝やります．毎朝の1限50分間は中国語，ですから月火水木金と，毎朝中国語です．中国語の授業を受ける人数は7人や10人，それに先生が3人です．先生3人は一度につかず，交代で来ます．

イェール大学ではなくプリンストン大学の例ですが，どういう語学の授業をやるか．月・水曜は普通の中国語の授業を行います．もちろん10人でやっていますから片っ端から当てられます．火・木曜は前日の授業の復習，金曜は1週間の復習，そして翌月曜は最初の授業に加えて別にテストをします．テストはペーパーテストですが，それとは別に中国語ネイティブの先生が話した発音をiPadにとり，それを聞いて自分で録音した音声ファイルを提出します．これを15週，毎週です．月～金曜までみっちり中国語の勉強をやり，土日は宿題の山，月曜は授業とテストです．これは中国語の専門学校でも厳しいと思います．十分きついのですが，これでまだ中国語の話しかしていません．ですから，日本の大学の語学教育よりすごいです．実は日本においてこれを英語で行っているのが亜細亜大学なのですけれども，誰も話題にしません．

ここでポイントなのは，東京大学の時間割を見ると学生は16科目取っています．ところが，アメリカの大学ではどこもそうでしたが，同じように埋まってみえるイェール大学の学生は1学期に4科目しか取りません．少ないですね．この学生は有機化学実験の大きなものが入っているのでこれを忘れていただくと，中国語，有機化学，ライティングセミナー，免疫学しか取っていないのです．プリンストン大学では4年間で31科目，イェール大学は4年間で36科目取れば卒業ですが，東大生は16科目取っています．日本は90分授業で16科目を取るのは，はっきりいって薄く浅く詰め込みすぎなのですよね．もうお分かりのとおり，米国は一つの授業にとても手が込んでいるわけです．

彼は有機化学を取っていますが，有機化学は一般教養の理系科目だと思ってください．たった4科目しか取らずにどうしているかというと，有機化学の授業は月・水・金に50分あります．これは週1コマより定着します．問題なのは，有機化学の授業を受ける学生数は割と多く

て100人です．なぜかここに夜7時からセクション有機化学というなぞの科目が入ります．一体これは何でしょう．これは大人数で行う科目を黙って聞いてレポートを出すだけでは駄目だという大前提のもと，ゼミ形式の授業が入っています．つまり，有機化学の授業は100人や150人ですが，週1回のセクションでは大学院生のティーチングアシスタントによる1対10のディベートをしています．ディベートと座学がセットで有機化学1科目というわけです．日本の大学の皆さんの場合は，例えば一般教養で日本文学入門という科目を取った場合，150人で聞いて学期末にレポートを出して終わりなのですが，これにディベートのゼミが1対10ぐらいで入り，ほかに山のような宿題が出るということです．実際問題として，私は日本のすべての大人数講義にはこのセクションを導入すべきだと思います．これをやるために有機化学をみっちりやっているということです．

ライティングセミナーという授業は75分で，これも90分ではありません．大阪大学にも1年生向けのゼミがありますが，フレッシュマンセミナーですね．彼の場合は免疫学を取っていますが，これも75分です．大きい3時間半の実験は特殊なので外しますが，このようにたった4科目しか1学期に取らず1科目をみっちりやっているのが，取材してきたアメリカのアイビーリーグのスタイルでした．ハーバード大もイェール大学もプリンストン大学も大体こういう感じでした．

よくアメリカの大学は日本と違って資金力がある，先生の数が多いなどといわれますが，日本とアメリカではいろいろ違うのはよく分かります．私は日本が駄目でアメリカがいいというつもりは全くありません．しかし，パンキョー革命のためにもし参考にできる部分があれば，皆さんが参考にしてくださるといいと思います．どうせ無理だというわけではありません．少なくとも今までは日本国内でもっといいことをやっている大学がないかというぐらいが私の関心だったのですが，やはり世界で何が起きているかに関心を持ってほしいと思います．

彼の時間割を表にすると，1学期当たり4科目，5科目しか取っていません．先ほどの有機化学は週3×50分＋セクション週1，免疫学セミナーは十数人のクラスで週2×75分，ライティングセミナーは十数人クラスで週2回×75分です．日本人学生にライティングセミナーの話を聞いたところ，英語で書いたレポートが進研ゼミの赤ペン先生のように真っ赤になって返されるのでとても落ち込むと話していました．しかし，これをやっておくと論文の書き方が分かるのですね．なぜ日本にそういう授業があまりないのかがとても不思議です．中国語の授業は週5×50分あります．

イェール大学の初年次教育

【1年次前期（秋学期）】　5科目だが週14時限
- 有機化学　週3×50分＋セクション週1
- 免疫学（フレッシュマンセミナー）　週2×75分　10数人クラス
- ライティングセミナー　週2×75分　10数人クラス　導入ゼミ的な科目
- 中国語　週5×50分　10数人クラス
- 有機化学実験　週1×2～3時間

【1年次後期（春学期）】
- 有機化学　週3×50分＋セクション週1×50分
- 有機化学実験　週1×2～3時間
- 中国語　週5×50分　10数人クラス
- 細胞生物学　週2×75分　60人授業　セクションでは10人（週1×50分）
- 現代ヨーロッパの政治学　60人のレクチャー（週2×75分）と15～20人のセクション（週1×50分）

後期になっても同じような科目を取っています．細胞生物学は60人クラスの授業で週2×75分，ただし60人の授業でも大学院生のTAが3人入って授業をサポートしています．例によってセクションもあります．彼は現代ヨーロッパの政治学という科目を取っていますが，これも週2×75分の60人のレクチャーと15～20人のセクションが週1×50分です．このように授業のやり方が非常に凝っています．これはすごいです．

彼は9月に入学しています．1年生の秋学期は9月～12月なのですが，今話題の東京大学の秋入学は，実はハーバード大ではなくイェール大学のスケジュールに合わせています．生協には『アホ大学のバカ学生』（光文社，2012年）という私の名著が売られています．この本で書いているのですが，東京大学はイェール大学と協定を結んで交流しています．ところが，シンガポールにイェール大学とシンガポール国立大学の合弁の大学が立ち上がり，東大が干されている状況にあります．

1-2. イェール・シンガポール大学

イェール・シンガポール大学は，すべての授業が20人以下で全寮制，授業はすべて英語で行われます．シンガポールの公用語は英語なので授業をすべて英語でやるのは当たり前です．本場の方のイェール大学では，9～12月が秋学期，1～5月に春学期，6～8月はすべて夏休みです．3カ月の夏休みはいいですね．学生は全寮制で，寮は男子学生7人部屋という大変むさ苦しいところに住んでいます．この寮にはディーンという事務長のような教員がいます．大学の先生と一緒に寮に住んでいるのですね．ですので，授業で分からないことは先生に聞くことができます．また，マスターという寮長のような教員がいます．マスターとディーン，あとはフレッシュマン

アドバイザーという1年生の担任の先生，フレッシュマンカウンセラーという4年生，これらすべてが寮に住んでいます．ですから，何か困ったことがあったときには学生6人のほかにマスター，ディーン，アドバイザーの先生，カウンセラーの4年生がいますので，実はものすごくサポートされています．授業の空き時間は寮に帰ればいいのです．

学生寮がなく全寮制ではない名門大学は世界で日本ぐらいです．大体皆さんおかしいですよね．授業が終わったら混雑する電車に乗って神戸や大阪や京都に帰っていくのでしょう．その時間がもったいないということです．東大生の場合，50%が自宅通学で平均通学時間は1時間です．天下の東大生の24時間のうち2時間は電車に乗っているという，どれだけの鉄道マニアかと私がツイッターで書いたら，東大生が電車の中で勉強しているからいいと書いてきました．だけど電車の中で勉強していたら，学生6人やマスターやディーン，フレッシュマンアドバイザーと出会えないではないですか．

結局，大学の勉強は授業で知識を得ようと思ってはいけないのですよ．プライベートでどれだけ学んだかなのです．世界で日本だけ寮がないため，このプライベートで勉強する機会が日本人学生には全然ありません．ですから，私としては寮を作ることを常にこだわっているのですが，今すぐ大阪大学に寮ができるわけでもありませんので，皆さんでできることを考えていこうという私の突拍子もない話です．

1-3. マサチューセッツ工科大学

誰でも知っているマサチューセッツ工科大学の事例を出そうと思います．皆さんも興味があるところでしょう．マサチューセッツ工科大学ではKくんというアメリカ人に取材しました．私が行った日は3月でしたが大変寒く雪が降っていました．しかし，キャンパス内を裸足で歩いている人がいました．彼いわく，マサチューセッツ工科大学は変態の集まりだから裸足で歩いている人は珍しくも何ともない，僕は裸で歩いている人を見たと話していました．はっきりいってクレイジーな大学なのですね．ジョブズがいったとおり，クレイジーは基本的にほめ言葉です．皆さんの学校も理系が多いのでMITがどういう授業をやっているかをご説明しようと思います．

新入生の秋学期には，生物学，物理学，数学，英語のライティングというたった4科目です．生物学では講義が週3，ティーチングアシスタントによるレシテーション（recitation）という少人数のディベートが週2ある

MIT　K君

【秋学期】
- 生物学　レクチャーが週３＋TAによるレジテーションが週２（つまり週５）
- 物理学　レクチャーが週２で２時間、TAによるレジテーションが週1で１時間
- 数学　週５×１時間、うちレクチャーが週３で、TAによるレジテーションが週２
- 英語のライティング　週１で３時間。初年次教育科目のようなものらしい。ディスカッションなどもある。正式には「ランゲージ＆テクノロジー」という科目。人類学なども学ぶ。それは深い教育的意図があるそうだが、私の理解力不足で詳細は不明。

【春学期】
- 化学　クラスは週３で150人＋TAによるレジテーションが週２、TAの授業は12～20人で、質問やディスカッションをする。
- 数学　週５。秋学期と同じ。
- 経済学　週３。レクチャーが週２でTAのレジテーションが週１
- 物理学　週３。レクチャーが週２（１コマ２時間）で、TAのレジテーションが週１×１時間。

ので生物学で週5です．物理学は2時間通しで行われるレクチャーが週2，TAによるレシテーションが週1×1時間で週3コマ，数学は週5×1時間です．ということで，月～金曜まで数学と生物学，物理学をしっかりやっているという恐るべき学校でした．コロンビア大学などでは代わりにプラトンなどをしっかりやっています．

MITも大学院生のTAを使った少人数のレシテーションというディベート形式のゼミを必ずやります．大人数の講義もありますが，それだけで終わらせないということですね．1年生の入ったばかりの学生に英語のライティングをやっているのがちょっと面白いですね．週1コマしかない代わりに3時間通しで行われます．これも人数がとても少なくて十数人と聞いています．正式には「language and technology」という科目です．

春学期になると化学，数学，経済学，物理学を取っています．これもそれぞれがレクチャーとレシテーションが必ずセットになっています．日本の大学においてたくさんの問題があると思いますが，すぐにできる一番重要なこととして，黙って聞いている授業に少人数のゼミを組み合わせることを緊急にやるべきではないのか，それは先生たちにとって負担が重いので大学院生のTA，日本の場合は学部生を使ってもいいと思っています．

MITには変な文化があるそうで，キャンパス内で適度ないたずらをしても許されるそうです．ある学生は校舎の屋根にパトカーを置きました．本当なのですよ．検索して見ていただきたいのですが，大きなドームの上にパトカーが乗っています．なぜ乗せたか誰にも分からないのですが，ある日の朝，学校に来てみると乗っているわけです．この学校が面白いのはそれを叱るのではなく写真を撮って壁に飾ってあるのですよ．その後，学長あてにパトカーの下ろし方という手紙がきたらしいです．そういう変なことをやっていいという文化がMITにはあるそうです．ただし，この学校は勉強がとてもきつく，勉強がきついために自殺者が出ると聞きました．た

だ，先ほどの裸足で歩く人や変ないたずらをしても許されます．パトカーの次の年には屋根から生きた牛がつるされていたそうですね．これも生きた牛をつるした写真が載っています．犬のハーネスのようなものを巻いた牛がつるされたそうですが，これも牛の下ろし方が書いてあったようです．変なことをしてもいい不思議な大学で大変面白かったです．

アメリカの大学で取材してきたのはプリンストン，イェール，ブラウン，MIT，ハーバードでしたが，今話したような感じで授業を行っています．今までハーバードの先生がすごいというようなテレビ番組が多くの日本人を勘違いさせたのだと思うことがあります．皆さんの学校にもスタンフォードの先生が来ていたと思うのですが，授業を改善するというのはマイケル・サンデルのようなすごい教授が面白い授業をするものだと多くの日本人が思い込んでいるのですよ．明らかにそれはおかしいだろうというのが私の主張です．今ご説明したとおり，入ってきた新入生にきつい環境でたくさん勉強させること，すごい先生が面白いレクチャーをやること，大学院生とのセクションが1セットであることが全く忘れられています．

日本で皆さんを教えておられる多くの先生方の中にはアメリカ等で修士，博士を取ってこられた大変優秀な先生がたくさんいらっしゃいます．それは素晴らしく，いいことです．しかし，アメリカで学部教育を受けた人はあまりいないと思うのですよ．大抵は日本で東京大学や大阪大学などを出て，きみは優秀だからアメリカでもまれてこいと勧められ，あちらでドクターを取ってきたから天下のPh.Dがついているのです．しかし，その先生方はアメリカの学部教育を受けていませんよね．私は学部教育の面白さをぜひ学部生である皆さんに知ってほしかったのです．今でもハーバードというと，すぐにハーバードビジネススクールのすごいビジネスみたいな本が出ていますが，本場ハーバードでは，実はビジネススクールというのは金に目がくらんだやつらというさげすみの声もあるのです．なぜなら哲学をやっている人などもいるわけですよ．

1-4. ヨーク大学

アメリカの大学を見学した私は，意気揚々とカナダへ行きました．カナダに留学している日本人からアメリカに行くならカナダに来てくださいと言われたから行ったのですが，最初の感想は「行きたくない」でした．というのは，アメリカから航空券を買って帰ってくればいいのになぜカナダまでと思ったわけですが，結論は行って正解でした．なぜなら，カナダの大学はアメリカの大学と全然違いました．アメリカの大学は90分授業ではない，90分授業はやめた方がいい，50分だみたいな話を皆さんにしましたが，カナダでは授業がすべて3時間でした．全然違いました．

カナダにあるヨーク大学はかなりの名門です．このカナダの彼が4科目しか取っていないのは先ほどのアメリカの学生と同じですね．ところが，このうち3科目がそれぞれ週1×3時間，1科目は週2×90分というもので，全然アメリカと違ったのです．私はこれを聞いた瞬間にアメリカが勝ったと思いましたが，彼が受けている教育は20人，20人，30人，15人でした．3時間といっても黙って3時間聞いているのではなく，ディベートやワークショップなどのアクティブラーニングのとてもしんどい授業をみっちりやっていたのですね．これは経営学部なので，実際に企業の人間に投資の話を提案するなどの授業があるため，授業以外の時間がとてもきついのですよ．週1コマしかない代わりに空いた時間は学生同士が集まって宿題や議論をやらなくてはいけない時間がたくさんあり，とてもきついのです．ただし彼の場合は1～4月に2科目しか取らなかったので週3でインターンはやっていました．

カナダ　ヨーク大学シューリック スクールオブビジネスのＳ君

9月～12月　秋セメスター
・4000　スポーツマーケティング　週１×３H　20人
・4000　ソーシャルアントレプレナーシップ　週１×３H　20人
・3000　カナダのビジネス事情（留学生向け）　週１×３H　30人
・3000　国際経済学　週２×90分　15人
月月火水木

１月～４月　冬セメスター
・4000　ブランドマネジメント　週１×３H　20人
・4000　ソーシャルメディアマーケティング　週１×３H　20人
週３でインターン

このカナダの大学は5万人もいるのでキャンパス内に大きなショッピングセンターがあるのです．さらに驚いたのは，この後トロント大学に行ったのですが，図書館の蔵書が1500万冊で大阪大学の総合図書館の7倍ありました．はっきりいって大阪大学の総合図書館は日本で一番立派だと思います．東京大学は本があちこちに分散されています．私は大阪大学の総合図書館は素晴らしいと思っていますが，その7倍の大きな図書館です．国体代表とワールドカップぐらいの差があると思いますが，大阪大学は十分いいところだと思います．1500万冊もあ

るために図書館の1階が巨大な学食，フードコートでした．

ヨーク大学のフードコート

ヨーク大学にはグループプロジェクトの授業があり，宿題がとてもきついためにキャンパスのあちこちに個室の勉強部屋みたいなところがたくさんあります．こういう空いた部屋でグループ学習みたいなことを鬼のようにやらされる，やらされるというより勝手にやっています．この学校では1～2年生の授業がすべて40人以下，3～4年生になるとすべての授業が20人以下です．ものすごく丁寧にやっていますが，アメリカのハーバードやイェールは学費が1年400万もかかる私立大学だからできるのですが，カナダは驚いたことに州立大学です．なぜそこまでできるのかは，申し訳ありませんが調べていません．

カナダの場合，大学院の経営のMBAに近いことを基本的に学部教育でやってしまうことが分かりました．ご存じのとおり，アメリカでは4年間はリベラルアーツ（教養教育）で大学院でより専門をしっかりやろうという考えですが，私が意外だと思ったのはカナダでは学部教育でしっかりやろうとしています．これは実はヨーロッパ型です．日本は戦後，アメリカの高等教育の制度が入ったことになっているにもかかわらず，皆さんは入試の段階で学部を決めなければいけません．それはなぜか．実は戦前の日本の大学はどちらかというとドイツなどのヨーロッパ型でした．驚いたことにイギリスは大学が3年しかないのですよ．オーストラリアもそうです．なぜかというと，ヨーロッパの人たちは皆さんが1～2年で受けているようなリベラルアーツが高校までに十分身についているから大学では専門しかやらないというのがヨーロッパの大学なのです．どうもカナダはその節があります．ですが，アメリカは違います．

2. 日本の大学はどう変わるべきか

そして，問題は日本です．どうも日本はもともとそうだったようです．大学は専門だけをやればいいではないか，なぜなら，戦前は教養教育を旧制高等学校などでやっていました．ですから，大学は専門をきちんとやるところであり，今でも日本の大学は奥底ではそう思っていると私は思っているのですよ．そうでなければ入学の時点で医学部や経済学部などと決めないではないですか．ですから，日本の大学は実はアメリカ型ではなくヨーロッパ型なのです．学校側はこれを認めません．そこにアメリカからリベラルアーツが入ってきてしまったばかりに戦後に教養部というよく分からないものができ，それが名と姿を変えて皆さんの立場になっているわけです．

これは私から見ると，ヨーロッパ型の教育とアメリカ型の教育のいいとこ取りではなく悪いところ取りです．なぜか日本はアメリカの制度を導入するときはわざわざ劣化させて導入するという訳の分からない癖があり，その頂点がロースクールです．リベラルアーツもそうなのですよ．はっきり言いますが，先ほどのイェール大学の授業をあのまま日本に導入してもいいのにわざわざ劣化させて導入するという訳の分からないことをしています．結果的に，大学側は世界最高の教育を皆さんに提供していることになっていますが，皆さんはそうでもない，改善の余地があるのではないかというのは，まさにこういうところなのではないかなと思います．

2-1. 教員1人あたりの学生数

皆さんに無関係な話かもしれませんが，日本のほとんどの大学は私立大学です．ですから，皆さんも友達が私

立大学に行っている人も多いと思います．関関同立や近畿大学など名前だけ聞けば大阪大学とそんなに違わないように見えるのですが，実はかわいそうなことに私立大学の学生は皆さんとは違ってとても劣悪な教育環境で勉強しているというのがこの数字です．それは教員1人あたりの学生数です．

教員１人あたり学生数と平均クラスの人数が、大学の質

青山学院大学
- 文学部　46人
- 経済学部　57人
- 法学部　55人
- 経営学部　55人

法政大学
- 法学部　55.0人
- 文学部　40.4人
- 経済学部　61.0人
- 社会学部　48.4人
- 経営学部　57.3人

東京大学　9.2人
北海道大学　9.5人
新潟大学　9.7人
東京工業大学　9.8人

プリンストン大学　５人
シカゴ大学　６人
ハーバード大学　８人
ダートマス大学　８人
ウェルズリーカレッジ　８人

大阪大学がなくて申し訳ないのですが，東京大学や新潟大学あたりをご覧ください．こちらは計算方法によって人数が変わるのですが，概ね国立大学は大学の先生がすごくたくさんいることによって質の高い教育が受けられます．アメリカの名門校と比べても数字の上では遜色はありません．ところが，ここに青山学院大学と法政大学を出していますけれども，関西大学などもこういう感じなのですよ．関西大学の法学部などでは60人，皆さんの6分の1の質の教育を受けています．これについて，私は譲れません．本当にそうなのですよ．ですから，皆さんの多くが一緒に歩んでいく日本の大学生諸君は非常に質の低い教育を受けていることに私は気づきました．

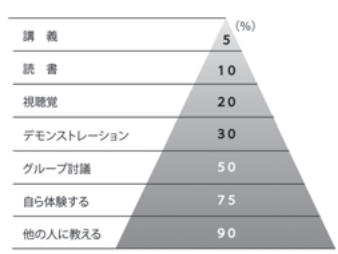
つまり，大きな教室で大人数授業をやるのが大学の授業なのだと思い込まされているのですよ．ところが，国立大学にくると分かるわけですね．テレビドラマなどで階段教室などを映すものですから，オープンキャンパスなどで階段教室を見て素敵と思うのでしょうが，素敵なわけありません．イギリスのオックスフォードやケンブリッジにも行きましたが，あちらでの授業の基本は1対4などです．教授とみっちり丁寧にやるのですが，本来の大学の授業はそうなのです．大衆が大学に行くためにやむを得ず大人数でやっているだけです．そして，先ほどのアメリカの事例で分かりますね．大人数講義をやったら同じ授業をゼミでやってカバーする，同じ内容をやるわけです．

また，アメリカの場合はティーチングアシスタントをやった大学生でないと教授になれません．つまり，研究業績が立派で論文を書いただけでなく教えることがプロでないと大学の先生になれないのです．驚いたことに中国でも同じです．日本はどうしたのだろうという感じです．中国では教員と職員の間の補導員と呼ばれる人がいます．補導員は勉強を教えるわけではありませんがクラス担任です．担任の先生がいて，学生のキャンパスライフの面倒をみているということです．先ほどのイェール大学の寮の人みたいな担任の先生がいるわけです．面白いのは，補導員を経験しないと大学教授になれません．イェール大学ならばTAをやらないと教授にさせないのと同じです．中国の制度では，補導員になってクラスを持って学生生活の面倒を見た後，教員を目指すか幹部職員になるかが選べます．これはいいですね．今日本でも教員と職員の間が必要なのではないかという議論が細々と新潟大学の絹川先生あたりが言っていますが，誰も聞かないという状況です．私は必要だと思います．

2-2. 能動的学びの重要性

これはアメリカの調査結果です．授業から得た内容を覚えているかを半年後に調べたところ，講義で聞いたことを半年後も覚えているのは5%でした．皆さんが聞いた講義は半年後に消えてなくなっていることが分かります．読書は10%ですので，講義より読書をしている方がましということが分かります．視聴覚は20%，本を読むよりテレビを見る方がましということが分かります．デモンストレーションは30%ですから，私も本日は講義ではなくデモンストレーションだと思ってやっていますので6倍の価値があります．この後に皆さんはグループ討論をなさいますけれども，アメリカの調査によるとグループ討論は黙って授業を聞いているより10倍定着するわけです．素晴らしいですね．というわけで，熱くグループ討論していただく．授業に積極的に参加しないと点数がつきません．手を挙げないと点数がつきませんので，手を挙げて意見を言わないのはいかがなもので

黙って聴くのが授業じゃない！



※出典：The Learning Pyramid.
※National Training Laboratories

アメリカNational Training Laboratoriesの調べによると、授業から得た内容を覚えているかを半年後に調べたところ、定着率の高い学習方法を定着率の高い順に並べると、「他の人に教える」、「自ら体験する」、「グループ討議」の順になった。一方、最も学習定着率の低い学習方法は、ただ黙って講義を聞くという結果。つまり能動的に授業に参加し、行動を伴いながら学ぶことが学習定着率につながる。

しょうか．そういう感じで覚悟していただきたいと思います．

グループ討論よりもっと価値があるのが自ら体験することです．企業に行くことやボランティアで農村に行くことが実は素晴らしいということです．最後に，ほかの人に教える．だからTAなのです．大学院生がほかの学部生に教えることです．例えば，皆さんが2年生だとして1年生に自分が受けてきた授業を教えるとしたらとても大変でしょう．準備をしなくてはいけないし，1年生に分かりやすく教えなければいけません．それをやることによって講義を聞くよりも5%から90%へ自分の定着率が上がります．つまり，人に教えることは自分が学ぶことなのです．おかげさまで，本日私は大変学ばせていただいています．そういうわけで，ただ黙って講義を聞くというのはものすごく駄目だと分かっているにもかかわらず，なかなか改善されません．

2-3. 日本の大学の問題点

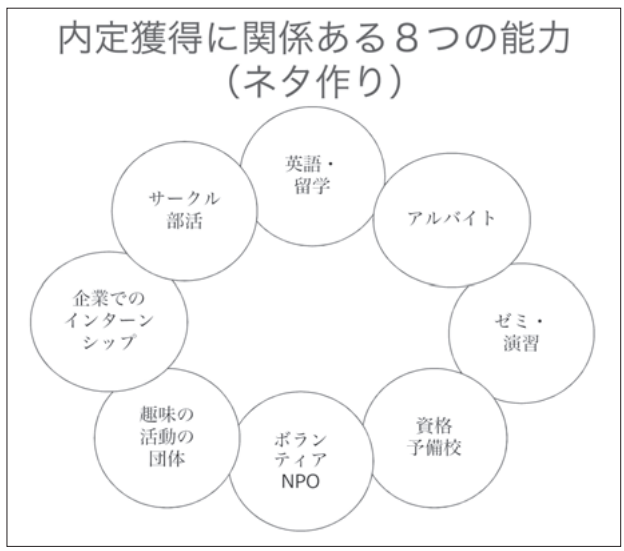
それはなぜか．本来，大学の学びは能動的であるはずにもかかわらず，今までの日本の大学は結果的に受動的な人間を作ってきました．それはなぜか．会社がそれでよかったからです．企業は黙って言うことを聞くかわいい後輩が欲しいのであって，上司に対して自分はこういうことがしたいという人間は今までは要らなかったのですよ．でも，皆さんがお気づきのとおり，日本の経済がへろへろになってきて，若い人に何とかしてもらわないといけないというので大学教育も変わらなくてはいけません．

もう一つ私が非常に問題だと思っているのは，属人的な自己責任社会です．時々学食で1人で食事をしている人を見ると，あいつは友達がいないのではないかなどということがあるかもしれませんが，先ほどのイェール大学の例などのように個人のメンタリティとは無関係にすべての人間にサポートが行き届いています．それはメンタルがタフだろうが弱かろうが関係ありません．ところが，日本の場合は寮がなく，クラスもしっかりした体制がないために学問の友人ができません．私がそうだったのですが，大学に入ったらサークルでスポーツなどの遊びの友達はできました．しかし，勉強の友達ができないのですよ．大阪大学はその点よくなさっていると思います．授業の空き時間に寮に帰れませんから，結果的に自分の居場所は自分で作るしかありません．

こういうことをやっていると生きるスキルが身につきません．これは少し抽象的な話になっていますが，先ほどご紹介したアメリカやカナダの大学の授業を見ていると皆さんが日本の大学でも参考になる，改善すべき点がたくさんあることを薄々感じていただけるのではないかと思います．

2-4. 大学で身につけるべき能力

東京大学教育学研究科の本田由紀先生が提唱したものなのですが，内定獲得に関係ある八つのネタ作りです．本来の授業の話から脱線していますが許してください．これから就職するにあたってほとんどの学生が就職の面接でアルバイトとサークルの経験ばかりを話すわけですね．「アルバイトはコンビニでしていました」，大阪大学なら「塾講師をやっていました」「家庭教師をやっていました」などです．東大生も塾講師や家庭教師が多いです．時給は大体3000円ですか．いいですね．コンビニの何倍もらえるのでしょうか．



就職活動の面接でサークルの話をされて企業の人からうんざりだと言われたのは，なぜかテニス部の副部長ばかりだというのです．「学生時代は何を頑張りましたか」「テニス部の副部長でした」，またきたか．なぜ人はみなテニス部の副部長になるのか．これが笑えないのは，私は高校の時に副生徒会長でした．分かりますか．生徒会長はやりたくないですよね．先に書記などになってしまえば生徒会長にならなくていいのです．そういうわけで，日本人の出世したくない気持ちがまさにテニス部の副部長という言葉に凝縮されています．それは企業も飽きているので，バイトとサークル以外にネタを作っておけということです．

これはバカバカしいと思うかもしれませんが，東京大学教育学研究科の先生が真剣に作ったものなので私は結構きちんとしていると思うのですよ．バイトとサークル

以外に大学時代に頑張ったことを作っておくということで，「英語・留学」「企業でのインターンシップ」「ボランティア・NPO」「資格・予備校」「ゼミ・演習」です．要はゼミや授業できちんと勉強をしようということです．ですので，本日皆さんがやっているこういう活動もとてもいいと思います．

趣味の活動団体はマニアックだと思いますが，何か好きな趣味がある場合にもし可能なら学外の人との交流や社会に出てみることを何か一つやってもいいのかと思います．ただ，皆さんの周りにアフリカやカンボジアの貧しい子どもを救うために頑張っているという人はいませんか．私がそういう人を見ていて不安になるのは，そういう人の中には大学で勉強していない人がいませんか．マサチューセッツ工科大学でハイチ地震の被災者を救う活動をしていました．しかし，これは学生が勝手にボランティアでやっているのではなく大学のカリキュラムに組み込まれているプロジェクト学習になっているので，教授とお金がついてきてみんなでハイチに行きます．つまり，これは学問の一部なのですよ．ところが，日本の場合はやる気のある学生が世界で何かをしたいとき，ほとんどの大学はサポート体制が一切ありません．人，もの，金が一切ありません．イェール大学の学生は6～8月まで3カ月ある夏休みで北京に留学しているのですが，これは大学からポケットマネーが150万出て，向こうで世界中の学生と夏休みに一緒に勉強しています．

ですから，カンボジアに学校を作るみたいなものも大学の学問と結びついていて，きちんと教授が手伝うわけです．ところが，日本はこれが充実していないばかりに自分で勝手にやってしまいます．カンボジアやアフリカで学校を作っている人には立派な人もいますが，私から見ると大学の授業が駄目だからほかに楽しみを探しているように見えます．もちろん全員とは言いません．

3. 大学を変える際の課題

今大きくお話ししたのは，最初にアメリカの時間割の話，それを踏まえて日本の状況を話しました．最後の三つ目は恐らく今までパンキョー革命で皆さんがあまり触れてこなかった部分だと思っています．それは教員の待遇の改善です．私は大学の先生ではありません．自分が受益者として面白い授業をやってほしいというのが私の出発点でした．ところが，日本の大学の先生はアメリカなどと比べてさぼっているのかと思っていたのですが，大学の先生方を取材してみるとそうではありませんでした．

3-1. 重すぎる教員の負担

実は今，日本の大学の先生は目一杯です．皆さんがご覧になってどう思われるか分かりませんが，日本の大学の先生は担当するコマが多すぎるのですよ．例えば，大阪大学ですと4コマぐらいと聞いていますが私立大学ではルールとして6コマを教えています．ところが，10コマや12コマという小学校の先生並みの環境で教えている日本の名門私立大学が数多くあります．結局，日本の大学は授業を改善しようにも教員の負担が重すぎます．

先週，ある首都圏の私立大学でFD講演会の講師に招かれた私は教員の負担を減らすFDというテーマを出したら大受けしました．冒頭に申し上げたのですよ．FDというといろいろな教育学者がやってきたり，ほかの大学の成功事例を話す先生が大きな顔でやってきて，うちの学校はこれほどFDを頑張っているよと話して去っていきます．しかし，皆さんはそれを聞くとうんざりでしょう．こちらは目一杯やっているというのが先生方の本音ですよね．

基本的にこのパンキョー革命も気を付けないと，先生方の負担は今でも十分きついのにもっとしんどい思いをさせるのではないかというのが私の最後の問題意識です．ただし，最初の問題意識では授業を改善しろと話しているので矛盾しているのですが，これは仕方ありません．

3-2. アメリカの有名大学の入学試験

アメリカで聞いた話では，日本の大学の大きな問題は入試と教員人事にあるといわれます．入試に関しては当然，天下のセンター試験で大変高い点を取られて突破された優秀な大阪大学の皆さんには申し上げにくいのですけれども，これが本当に一番優秀な人間を選ぶシステムなのかどうか．少しそれはどうかと疑うことです．皆さんは大学生ですから分かるとおり，既存の学問はとりあえず疑いますね．私はみんながほめる大学を疑う癖があるので，秋田の国際教養大学を批判することもあります．みんながほめているところは疑います．今のペーパー試験で優秀な学生を取るシステムが本当に一番いいシステムかどうかを疑問に感じていたら，驚いたことに京都大学が入試改革をやるというのですよ．私立大学みたいなAO入試をやって，部活動などやる気みたいなもので判断する学生を1割取るというのですね．それもどうかとは少し思いますね．

先ほどのイェールやハーバードがどういう入試をやっているかというと，いわゆるアメリカ版のセンター試験のSATがあり，これは満点近く取れて当たり前です．その点は皆さんと一緒です．これに加えてエッセイがあって志望動機を書かなくてはいけません．私はなぜイェールに入りたいのか．実はこれが一番しんどかったと日本人学生は話していました．僕はなぜ入りたいのだろう．有名大学だから，将来何をやりたいから，このエッセイを書くことが極めてしんどいのです．また，高校時代のリーダーシップ経験を書かなくてはいけないそうですから点数だけ取れている人間は入れませんね．どちらかというと企業の面接や採用試験に近い形です．高校時代のリーダーシップ経験や大学の志望動機が厳しく問われるような入学試験をやっています．もちろんこれが正解で，日本は間違えているというつもりはありません．

3-3. 入試制度はこれでいいのか

なぜアメリカはそれをやっているのかというと，あくまでも私の意見ということで皆さんの意見と違っても許してほしいのですが，どうもハーバード大学あたりはメンタルがタフなリーダーを取ろうとしているようです．東日本大震災のときに私が分かったのは東大を出た人たちのメンタルが豆腐であるということでした．東京電力の社長は原発が爆発したらショックで倒れて入院しましたね．オバマ大統領だったら何回死んでいるのかという話です．リーダーはピンチになったときに仕事をする人なのです．普段ふんぞり返っている偉い社長や市長ではなくて，まずいことが起きたときに何かやるという強いメンタルを持っているのがリーダーであり，アメリカのトップ校がそういうメンタルのタフな人間を取るために志望動機を書かせたり，なぜこの学校に入りたいかを徹底して問うというのはそういうことなのです．京都大学は薄々そういう人を取ろうと思い始めています．

ですから，冒頭の東京大学や大阪大学は点数が高い人を取るやり方が本当にエリートなのか．入試制度はこれでいいのか．話を大きくしすぎているかもしれませんが，実際に京都大学や東京大学が高校生を入れる部分に着手しようとした今，入試はどうするかを皆さんで議論して，もしかしたらそういうことを考えて提言してもいい時代がとうとうきたのかなと思います．入試制度は変えなくていいのか．皆さんは受かってしまった人なので正直なところ変えたくないと思うのですよ．ですが，本当にそれでいいのか．

ただ，いくらアメリカだからといってメンタルがタフなリーダーばかりが入っているのかという話ですよね．そういうわけはないですよ．アメリカ人にもシャイな人はいます．そういう人はハーバードやMITのような勉強や競争ばかりのところでは居心地が悪いわけですね．ではどうするか．アメリカでもメンタルがタフではない人の場合には2000人規模の小さなリベラルアーツカレッジに行きます．学力は高いけれどもそういう競争社会は嫌だというタイプは小さなリベラルアーツカレッジに行って先生とみっちり学ぶような家庭的な雰囲気の大学4年間で鍛えられ，大学院からハーバードという伏線があります．

ところが，大阪大学のような大きな学校ではなく小さいところでこつこつ学んでから大阪大学の大学院に行こうというとき，関西に小さくて偏差値が高い大学がないのですよ．ですから，本当にプール学院ぐらいが偏差値60ぐらいだといいのですが40ぐらいなのです．首都圏ならご存じのとおり国際基督教大学がありますから，私は関西に小さくていい大学が欲しいと思います．入試のときに京大・阪大・神戸大に入らないと大阪，関西はもうおしまいというのではなく，何かほかの手があるのではないでしょうか．

ただし，教員1人当たりの学生数を見ると私立大学は悲惨です．みなさんには近くの私立大学に目を向けるよりも，先ほどご覧いただいたような世界のトップたちと戦ってほしいのですよ．皆さんは自覚がないかもしれませんが，結果的にワールドカップでサッカーをやる人になってしまったわけです．実際になっているのですよ．皆さんの先生方は論文を書いて世界と競争しているわけですから，ここは世界と戦っている学校なのです．世界と競争していない大学もありますが，ここは世界と競争している大学なのだから，皆さんには教養教育でも世界のナンバーワンと競い合ってほしいわけです．東京大学が真剣にやらない以上，もう大阪大学に期待するしかありません．京都大学もあまり真剣にやっていません．

3-4. 世界の大学に目を向ける

本日なぜこちらに来ているかというと，私が日本中の大学をすべて行った中で最高にいい教養教育をやっているのが大阪大学だと思うからです．国際教養大学は一生懸命やっていますが研究をほったらかしていますから科研費が大学全体で895万円，教員の評価の6割を教育で評価します．研究ではないのです．金沢工業大学もおおむね先生を教育で評価しています．それはそれでいいのですけれども，こちらは違うではないですか．世界最

高の研究をやってプリンストンやハーバードやスタンフォードと競い合うのでしょう．ならば学部教育の質も厳しく競い合うべきだと思います．先ほどのイェール大学の事例などには間違えた情報が入っているかもしれませんし，これを見て私が正しいとか暗記しろといっているのではありません．皆さんには世界最高の教育をどこがどうやっているのかを貪欲につかみとってほしいのですね．

その上で，では大阪大学のパンキョーはどうしていけばいいか．正直なところ近隣大学よりも，フランスで一番すごい学校はどうなのか，イギリスはどうなのか．幸い皆さんの周囲には海外に行かれた先生もいらっしゃるし，皆さんにも留学した友達がいるでしょう．例えば，留学した子にどういう時間割だったかを聞いてもいいと思うのですよ．どういう授業だったか，寮生活はどうだったか．ぜひワールドカップで戦っていただきたいというのが私のお願いです．今の皆さんはそういう環境にいて，しかも大阪大学はそれだけのリソースをお持ちです．大変素晴らしいです．

あと10分の間に皆さんが質問を書いてくれることを私は祈っております．みうらじゅんという漫画家をご存じの方はいらっしゃいますか．少しいらっしゃいますね．先生に多いですね．ありがとうございます．彼は関西の人ですよね．彼がこういうところで講演しているのを聞きに行ったことがあるのですが，講演が終わったあとの質問コーナーが大嫌いだと話していました．なぜなら日本人は誰も手を挙げないではないですか．だから最初に手を挙げる人を愛している，あいつは仲間だ，最初に手を挙げてくれて助かったという気持ちになると話していたので私は最初に手を挙げました．みうらじゅんと心の友になりました．その講演は東京大学でやっていました．

恐らく今まで皆さんは高校などで手を挙げて発言する人は恥ずかしい，いじめられるという空気の中にずっといたはずなのですよ．今までの日本の会社もそうだったのです．しかし，世界中の人と学問やビジネスで競い合うときに恥ずかしいから手は挙げないといっていたら蹴落とされる環境にいることに皆さんは薄々気がついているはずです．先生方も論文は書いたけれども自信がないから発表するのはやめようといったら，当たり前ですがほかの研究者に先を越されるわけです．あまりあおってもつらいのですが，皆さんは世界と戦えるエキサイティングな環境にいる，ここはそういう学校なのです．幸いなことに皆さんはワールドカップでサッカーをしていいというチケットを手に入れてしまったのです．

今回のアメリカ取材のときに私はツイッターで「卒業旅行で私とアメリカに行きたい大学生募集」とツイッターでつぶやいたのですが，何と2人が来ました．これは驚きですよ．プリンストン大学に現地集合といったら早稲田の4年生と東北大学の4年生が本当に来ましたからね．ツイッターなどで顔は知っている人だったのですが大したものですよ．そのうち1人はニューヨークの空港でいきなりぼったくりタクシーに500ドル取られました．タクシー代が500ドルとはしゃれになっていません．「円安でよかったね」と言ってもなぐさめにもなりませんでした．彼らと一緒にハーバード大に行ったときに私は今のような話をして，きみたちはワールドカップの選手，きみたちがサッカーの試合で戦っているのを応援したりするのが私の仕事，私はジャーナリストなので報道する側です．皆さんにはしっかり試合をしてもらって，私はそれを応援しています．

今の学生のうちに何かすごいことをしなくてもいいのです．カンボジアに学校を作って映画になるなど今すぐやらなくていいのです．皆さんが本当に力を発揮するのは30代，40代で，ここにおられる若手の先生ぐらいのときが一番皆さんの脂が乗り切ったおいしいときなのですよね．そのときのための力を蓄えるのが今のこの時期なのであまり慌てなくていいです．皆さんの本番は2030年ぐらいでいいでしょう．サッカーなら体が若い今がピークなのですけれども，学問の場合はもう少し先なのですよね．皆さんの多くは大学院まで行かれるでしょう．そのための基礎体力を付ける，甲子園でいうならむしろ小学校や中学校の野球が好きな時期が今の皆さんだと私は思っています．

このときに学問の体力を付けるというところでパンキョーをどうやっていけばいいのか．そのためには世界の最高にいい教育の事例を知る．そして教員の負担は重くならないことがポイントなのですよ．イェール大学で私がすごく驚いたのが，語学は別として，先生は1学期に1科目しか持ちません．その代わり週2日か3日は授業があります．それは先生のモチベーションが違いますよ．ですから，FDというのは何か新しい工夫をして先生の負担を増やすというより，単に先生の負担を減らすことを考えていけば，先生による授業の質は明らかに上がっていきます．ただし，それだけではいけないので難しいのですし，1科目しか持たなかったら先生が暇ではないかとなるでしょう．その代わり，大学側はノーベル賞を取るような研究をやれと言っているわけです．それ

だけの時間とお金は与えているということですね．話を聞くと，大阪大学も私立大学に比べると先生のコマ数が少ないわけですが，それは先生方のご研究が世界に冠たるものであると私は信じています．

3-5. 北九州市立大学の改革

本日話しきれなかったのですが，実は私が注目しているのは北九州市立大学という九州の学校です．学生の授業を改善するためにこの学校が何をやったかというと，何と教員の人事システムの改革です．もう日本の大学はここまでやらないと駄目だと私は思っています．先日，ある東京大学の先生が教授会の自治は憲法で保障されていると堂々と私にツイートしてきたのですが，どうぞとしか言いようがないですね．確かにそうなのですけれども，その名のもとにあなたはどれだけさぼってきたのですかと書いたら荒れてしまうので書きませんでした．私もツイッターには敵が多いので気を付けないといけません．ちなみに，フォロワーは1万人いますので，何でも宣伝しますから何でもつぶやいてください．1万人は結構すごいですよ．サンデー毎日は6万部ですからね．

本日，大阪大学で話すのは危険なのですが，北九州市立大学は教員の人事権を教授会から奪いました．これをやると当然教授会が面白くないので，代わりに学長や理事長，外部の審議会の独断で教授会人事に介入するようなことはしないというバランスを取り，また，多くの大学で虐げられている中堅，若手教員をできるだけ審議会に加えて発言の機会を与え，若い先生に活躍のチャンスを与えています．今うまくいっていない多くの大学は変わりたくないおじいさんたちが牛耳っていて，若い先生たちが発言できないというような学校が関西でも東京でも多くありますので，若い先生を取り上げるということですね．いろいろな手を打ってだいぶこちらは改革をしました．

3-6. ビル・ゲイツのメッセージ

ジョブズの話は高校生向けにやっているのですが，皆さんは十分できているので話しても仕方がないかなと思います．ジョブズが昨年亡くなり，ジョブズのせいでビル・ゲイツが悪役のようになっていませんか．ですが，はっきり言わせてください．日本人はビル・ゲイツの方が合っています．ジョブズは日本人からすると信長や龍馬のようなヒーローみたいですが，彼の本を読んだら分かるとおりに敵も多いのですよ．こういう人が同僚や上司だったら間違いなくこれほど嫌な人はいないでしょう．でも，素晴らしい人です．

ビル・ゲイツがいいことを話しているので，最後にこの話で締めたいと思います．ビル・ゲイツが2000年に立教大学の名誉博士号をもらうために立教大学にやってきました．そのときにある学生が「あなたが成功するために役に立ったことは何ですか」と聞いたら，ビル・ゲイツが三つあると答えました．一つは小さいころから本をたくさん読んだ，二つ目は数学をやったこと，三つ目はコンピュータープログラムを勉強したことだそうです．ですから，皆さんの場合も本をたくさん読むことと数学をやること，三つ目は皆さんそれぞれの学部学科の専門でいいです．ジョブズとビル・ゲイツから分かることは，時間をかけず，努力せずには力はつきません．これは皆さんがよく分かっていることだと思います．

本日私が申し上げたかった話の重要性に比べると最後はおまけのようですが，最終的に私が申し上げたかったことはたった三つです．最初のアメリカの時間割，二つ目は日本の大学は今どうなっているか，最後に先生の負担の問題，この三つが私からのメッセージです．これを踏まえて，この後皆さんからご質問をいただいたり，グループディスカッションで大いに盛り上がっていただければと思います．ありがとうございました（拍手）．

本講演は，2012年6月28日に開催された第6次パンキョー革命（学生・教職員懇談会）「阪大を変える！世界一に変える」の第1部として実施されました．